

令和3年度 特別養護老人ホーム 幸せの里 事業計画書

1. 基本方針

介護保険本来の目的である利用者の「尊厳の保持」と「自立支援」を念頭に施設理念である「自分の親にしてあげたいお世話と自分が住みたいホームへの実践」の遂行につとめます。

時代に見合った快適さを装備し清潔感にあふれ、プライバシーを重視した生活環境を整えたハードを提供します。同時に働き方改革を意識した人事管理の下、サービスマナーを身につけ、高品質サービスを提供できるスタッフの育成をはかり、地域に愛され、信頼され、選ばれるオンリーワン施設を目指します。

2. 主要事項

- (1) 法令順守
- (2) 介護職員の資質の向上と専門性の確保
 - ① 施設外研修への参加推進と施設内勉強会の活性化
 - ② 感染管理体制の確立と非常災害計画の作成と周知
 - ③ ケアプランに即した生活支援、入所時からターミナル期へ段階に応じた適切なケアマネジメントの提供
 - ④ 身体拘束排除、高齢者虐待防止の徹底教育
 - ⑤ IT活用による記録時間の軽減、データ活用による介護支援の効率化
- (3) 働き方改革、同一労働同一賃金への対応
 - ① 適正な勤務管理によるサービス残業の防止と有給取得の推進
 - ② 勤務時間や勤務内容の明確化による正職員とパート職員の分別化
 - ③ 職務、職能に応じた人事考課体制の確立
 - ④ ハラスメント防止
 - ⑤ 知人、家族を誘いたい職場環境設定（人材確保強化）
- (4) コロナ下における面会制限の段階的緩和、家族との信頼関係構築
- (5) 空きベッド期間の短縮と加算項目追加による増収

1.通所介護事業

(1) 基本方針

地域のなじみの利用者がともに集い、語りあい、入浴や食事提供を支援することで在宅生活の継続を支援します。ウォーターベッドマッサージ機や電磁治療器の利用を楽しみにされる方も多く、利用者ニーズ、地域ニーズに従ったレクリエーションの提供を行うことで社会的孤立を妨げ、心身機能の維持向上を目指していきます。現在1日定員34名に対し70%の稼働率を今年度は75%、1日平均25名の達成を目指します。さらに介護職員の介護福祉士資格取得を推進し、加算取得のランクアップすることで増収をはかり、さらなるサービス提供の拡充につとめていきます。

2.在宅介護支援センター

法人全体のセールスマンとして対象者の掘り起こしを行う一方で、行政や地域民生委員、すこやかアドバイザーと各種サービス事業所のコーディネートを行うという中核的な役割を担っています。今後大規模法人が利用者も職員も囲い込み、小規模法人は合併吸収の対象となり淘汰される時代の到来が懸念されます。他法人の活動状況にも目を向け利用者動向をつかむことで新規利用者獲得につとめます。また本来業務である地域の在宅介護支援の拠点として重要な役割を果たすために自己研鑽と組織基盤の強化、充実につとめることとします。

2. 居宅介護支援事業所

介護保険の屋台骨居宅のケアマネージャーが持てる件数は1人あたりの最大35名です。当初はケアマネージャーの資質が利用者を誘導すると揶揄されることもありましたが、現在は同一事業所利用の報酬減算や優良介護支援専門員の確保困難による事業所廃止もみうけられるようになりました。まずは平均33件の最大定員確保を行い、安定増収をはかったうえで公正中立なケアマネジメント提供の基本を念頭に在宅利用者が可能な限り居宅で生活を継続するために主治医をはじめ、サービス事業所を繋げるコーディネーターとしての役割を十二分に発揮できるようつとめていきます。

また、利用者が自らの判断で適切にサービスを利用できる「利用者支援」という方法でそれを実現します。利用者が自らの人生のために、介護サービスを活用して生きていく力が持てるようサポートしていきます。

令和 3 年度 事業計画書

(ケアハウス すこやかハイツ)

社会福祉法人 愛和会

1.基本方針

安心して生活できる快適な住まいの提供と、個々の状況に応じた適切なケアマネジメントの実践につとめ、その人らしい暮らしの継続支援を目指す。

2.主要事項

- (1) 利用者の個別の状況に応じた適切なケアマネジメントの提供
- (2) 生きがい活動、介護予防的活動の推進
- (3) 事業所間の情報交換を活性化し、連携を密にすることで、適切かつ迅速なサービス提供を実現する。

3.広報、運営について

令和 2 年度は前年同様入居 6 名、退去 5 名、年度末を 27 名満床で 4 年連続終えることができた。定員 30 名に対する入居率は微増の年間平均 27.1 名。主たる退去の理由は、身体機能の低下及び認知症状の憎悪に伴う要介護状態の悪化である。(老健施設へ 2 名、医療機関へ 3 名転居となっている。)

また入居率改善の懸案事項「2 人部屋の有効活用」が 8 年ぶりに改善され、7 月より新規ご夫婦 1 組が入居された。25 年の歳月を感じさせない清掃の行き届いた清潔なハードの維持、栄養管理はもとより、嗜好に配慮した良質な食事の提供、高品質なサービスマナーを保持したスタッフの気持ちよい接遇、さらに病院や買い物等の外出援助など、現行サービスの拡充はもとより、利用者の多様なニーズ[®]に対し、柔軟な姿勢で対応できる体制の構築をはかることで理想の施設へのマッチングにつとめる。新たな宿敵コロナ感染対策については今後も継続して最善策を講じていく。今後予想されるワクチン接種に関しても柔軟に対応を行えるよう体制を整える。

昨年導入した生協の移動販売車については高評価を得られており、週 2 回の受入を継続する。また地理的障害を解決するため訪問診療を積極的に活用し、主治医、ケアマネージャーをはじめとする、専門職との連携を深められるようにする。同時に希望者には階下の特養へスムーズ[®]入居できるよう、中間施設の紹介を実施し、介護悪化時の受け入れ先への不安を解消できるよう支援を行う。さらに職員一同資格取得や目標達成を目指し、専門家集団として、一層研鑽することに努めていく。